

地元で愛される会社へー。 ベジファクトリー

平成30年度
 ふるさと企業大賞
 (総務大臣賞)受賞



前列右から、6番目酒井實代表、
 5番目酒井豊専務

平 成30年度ふるさと企業大賞表彰式(地域総合整備財団主催)は10月24日、東京都の第一ホテル東京で開かれ、ベジファクトリー(中田町・酒井實代表取締役)がふるさと企業大賞(総務大臣賞)を受賞した。

ふるさと企業大賞は、地域の振興、活性化に資する活動をしている民間事業者を平成14年度から顕彰している。

ベ ジファクトリーは、平成25年度に地域総合整備財団(ふるさと財団)のふるさと融資を活用。安全安心な農作物の生産・加工・販売を目指す、徹底した品質管理が可能な野菜加工処理施設を整備した。従業員は全て市内在住者を雇用し、材料の野菜の多くを地元農家から仕入れている。6次産業化に地域ぐるみで取り組み、地域経済に大きく

返る。

設 立に当たり、「信頼できる農家から仕入れたい」と、酒井代表自ら一軒一軒農家に足を運び、野菜を吟味した。ベジファクトリーの理念は生産者に寄り添う会社であること。脱サラして農業を始めた人には、自社以外の出荷先も紹介。時には、生産過程の勉強のため、生産者と一緒に北海道までタマネギ畑を見学しに行くなど、生産者との信頼関係を築きあげてきた。

酒井代表が、もうひとつ大切にしていることは障がい者雇用だ。酒井代表が同じく代表を務める中田サンファームでは、多いときで14人の障がい者を雇用した。「誰でも自分の家族、親戚や近所など身近にいる人を見回したときに、必ず障がいがある人がいると思います。社会で生活するには、障がい者との共存が必要で、彼らは、清らかな心を持っていて、真面目に仕事をしてくれれます」と優しく微笑む。

現在ベジファクトリーでは、障がい者の従業員は少ないが、これから雇用を拡大していく予定。

今 後は、地元への加工野菜の出荷を増やし、地産地

く貢献していることが高く評価されていることとなった。「今までみんな頑張ってきた成果が認められてうれしい。社員全員でもらった賞です」と酒井代表は笑顔を見せた。

会 社を設立したきっかけは東日本大震災。市内の農家は、震災で建物や農作物などに甚大な被害を受けた。地元農家の高齢化が進む中、被災したことで誰もが農業を辞めてしまい、登米市の農業が廃れてしまうのではないかと考えた。

「登米市は、土の質や気候など、環境に恵まれ、さまざまな野菜が生産できます。生産者も優秀で、質の高い野菜を作ろうと、常に研究している人が多い。そんな人たちの出荷先として野菜加工業が必要だと考えました」と当時を振り返る。

消の促進を目指す。息子の酒井豊専務は「地域に密着した地元で愛される会社を目指したい。ベジファクトリーがあつてよかったと言われるように今後も精一杯取り組んでいきたい」と話す。

生産者と支え合い、地元雇用を大切にしながら、ベジファクトリーは地域産業の未来を見据え、新しい時代を刻んでいく。



ベジファクトリー
 2012(平成24)年12月、中田町上沼字境前で創業。徹底した衛生管理のもと、タマネギやキャベツなどのカット野菜を取り扱う。仕入れた野菜を千切り、スライス、角切りなどに加工し、主に地元の農産物を使用した商品を生産。従業員は35人。
 出荷などに関する問い合わせは、
 ベジファクトリーまで
 ☎0220(23)7140